

本山寺山森林づくりの会

10周年 記念誌

本山寺山森林づくりの会『10 周年記念誌』の発刊にあたって

会長 茂木 完治



日本山岳会関西支部指導のもと本山寺山森林づくりの会が設立され、本年度 10 周年を迎えることとなりました。この長きにわたり活動が続けてこられたのは真に会員皆様方のご努力の賜物であり、また本山寺をはじめとする周りの方々の暖かいご支援によるもので、深く感謝いたします。

森林づくりの会のスタート当初は放置され荒れていた登山道も整備されて見違えるようになり、鬱蒼と密生していた森も常緑広葉樹の間引きで木漏れ陽の差す風通しの良い林となりました。また危険な立枯木も取り除かれました。

多くの苦勞がございましたが、なかでも 2018 年 9 月に関西を襲った台風 21 号の災禍は言語を絶するものでありました。本山寺山周辺でも太さ 50cm を超える樅などの巨木が軒並みなぎ倒されて、折損木が斜面一面に広がり、登山道を塞ぎました。まさに手の付けようもないという状況でした。

それにも挫けず、森林を再生させるべく多くの努力が払われました。風倒木が取り除かれ、森林が確実に再生へと向かっている姿を見ると感動に堪えません。森林整備の作業には多くの危険が満ちています。

今後さらに事業を進めるにあたり、安全に一層の注意を払いながら、より良き森林整備を目指しましょう。

本山寺山森林づくりの会が誕生した経過

事務局長 斧田 一陽

本山寺山森林づくりの会は平成 24 年 6 月 17 日に発足しました。その 10 年位前には、各地で森づくり活動が行われるようになりました。日本山岳会でも「高尾の森づくりの会」や、各地の支部で活動が開始されました。関西支部では自然保護委員会が、自然保護活動の一分野として関心を寄せ、「ブナを植える会」や「HAT-J 関西支部」の植樹や保全整備に参加してきました。高尾や東海支部「猿投の森づくりの会」も体験して、関西支部における森づくり活動推進を模索してきました。

平成 22 年の関西支部総会で、支部活動に森づくりを取り入れることを決定し、情報収集や候補地の検討を行った結果、大阪府高槻市にある本山寺山国有林で「ふれあいの森」活動を目指すことになりました。現地説明会、現地調査、全体計画作成調査を実施、林床整備、選木や伐木作業、植生調査など体験林業を経て近畿中国森林管理局長と平成 24 年 5 月 18 日に協定書を締結しました。

関西支部会員と一般公募会員で「日本山岳会関西支部本山寺山の森」と名付けたこの森の森づくり活動を主体として本会は結成されました。深山幽谷の趣を残す大阪府下では希少なモミ、ツガ、アカガシなどの冷温帯樹林があります。この森林で、生態系の豊かな森づくりと温室効果ガス削減を目指して活動し、後世に豊かな森を残すべくこの 10 年間活動をしてきました。

10年間の歩みと課題

本山寺山森林づくりの会は、結成以来本山寺山国有林の森林保全のために活動を行い、コロナ禍で中断することがありましたが、多くの会員の方のご支援を得て活動を続けることができました。

本山寺山の森林保全活動は、貴重な体験でしたが、振り返れば本当に楽しい10年間だったと思います。本会の活動を要約すると、3期に分けられると思います。

第1期 発足当時の本山寺山の森は、上部と下部の尾根筋には天然林がありますが、大半は人工林で占められていました。東海自然歩道沿いでは枯木・倒木が多く見られ、当初はハイキング利用者の景観を損ねていることから、20mの幅で、倒木の除去、枯木の伐採とナラ枯れ対策を行いました。

当初の作業は手鋸で行ってきました。さらに、保全対象であるモミ、ツガ、アカガシの後継樹の育成のために、モニタリング地区を設置し、試験的に植樹も実施してきました。里道の復元と整備なども手探り状態で進めてまいりました。

第2期 4年目に入り、作業拠点となる物置も整備され、チェーンソーやいろいろな工具も入り充実することにより、作業効率が飛躍的に向上するとともに安全対策の充実も図ってきました。

さらに、活動会員の募集・拡大、各種講習会、森林観察会、本山寺の初寅会参加、安全研修会の開催を通じて、活動が充実してきた時期となりました。

第3期 2018年の台風によって、ポンポン山の山系が壊滅的な被害にあいました。本山寺山全体においても、倒木が散乱し、作業歩道、自然歩道が寸断されました。まず、台風被害の後始末から始まり並行して通常作業も実施してきました。しかし、2020年から始まったコロナ禍により、残念ながら作業が停滞しましたが、作業日を増やし凌ぎできました。

それもあって、この10年の成果を見ると、予定していた森林整備の目標はあらかじめ達成したといえます。例えば、林床整備した地域では、台風による倒木は比較的に少なく、整備の効果が表れているといえます。

今後の課題 として、現在、シカ・イノシシの捕食被害が甚大で、下層植生がほとんど見られない環境となっています。今後、更に範囲を拡げての保全活動を進めていく事が求められています。

しかし、従事する活動会員の高齢化が進み、世代交代が大きな課題となっています。

あかがし一覧表（本山寺山森林づくりの会のホームページ参照）

| 号 数 | 発行日 | 掲載内容 |
|-----|---------|--|
| 創刊号 | 2014.3 | 発刊挨拶、森づくりの会ができるまで、会員の声、活動地域、全体写真 |
| 2 号 | 2015.10 | 活動状況、会員の声、中村康則さんの「本山寺山の植物相・植生調査」、井上達雄さんの「特別寄稿森づくりと山の暮らし」 |
| 3 号 | 2019.10 | 会長の挨拶、2015-2018 活動報告、森林境界を守る、写真で見る4年間、会員の声、安全な作業のため、活動拠点と本山寺の紹介 |
| 4 号 | 2020.5 | モミの木、2019 年度活動報告。写真で見る1年、2020 年度活動計画、会員の声、安全作業のために、2020 度活動カレンダー |
| 5 号 | 2021.5 | 本山寺の紅葉、写真で見る1年、2021-22 年活動、会員の声、川柳他 |

活動地域および活動状況



本山寺山森林づくりの会の活動内容



◇ 人工林・天然林の整備

過去に本山寺の地所であった関係もあり、保安林に指定されている深い森に加えてスギ、ヒノキが植林された人工林があり、その多くは間伐された木々が放置されたままになっています。又 天然林は密生して若木が育ち難い環境も見られるので、適宜、林床整備や除伐を行います。



間伐木が散乱する人工林



倒れた常緑広葉樹を整理



ナラ枯れ対策：ラップ等を巻く



危険な枯損木の伐倒



◇ やまみち保全活動

「本山寺山の森」に接する東海自然歩道はポンポン山へと続いています。この自然歩道の保全と巡視を実施します。また、森林内の作業歩道や案内標識の整備、里道整備、倒木処理、ゴミの撤去などを行います。



水切り溝の修復(東海自然歩道)



里道の整備(路肩の補強)

◇ 森林観察会・森林作業体験会

森林観察と作業体験を通じ、さまざまな植物・樹木や鳥類などの自然との出会いと体験の場を提供します。



森林観察会



植樹活動：前に採取し育てた苗を植え戻す

◇ モニタリング調査

調査区を設定し、毎年の整備の成果を検証します。

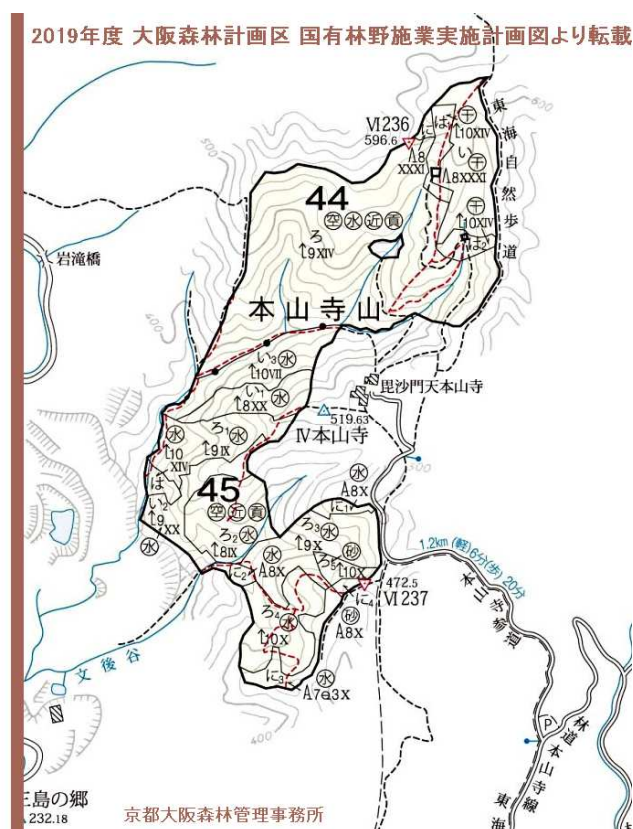
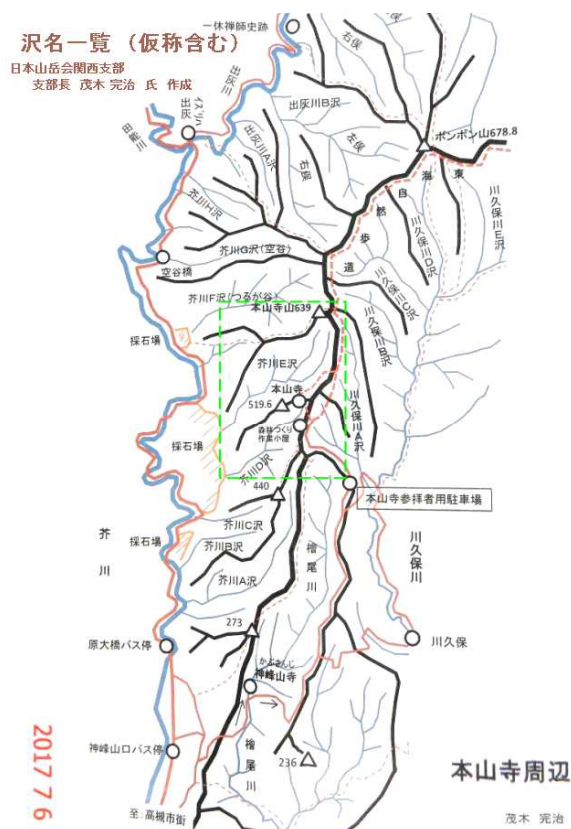


調査区の設定：広葉樹優勢の自然林



調査区の設定：人工林

| 年 度 | 作 業 内 容 |
|-------------------------------|--|
| 2012 年度 2013 年度 2014 年度 | 干害防備保安林 5 ha の整備。及び東海自然歩道沿いの幅 20 メートルの間伐、南部の伐り置き間伐地域及び天然林の林床整備が進んだ。作業内容は間伐、土留、枯れ木伐採、除去、つる切り、枯れ枝除去、鹿被害・植生調査など |
| 2015 年度 2016 年度 | 作業歩道、林床整備、枝打ち作業、ナラ枯れ防止処置、モミや山桜などの広葉樹林、作業基地の整備、植生調査業のアドブランチコーポレーションに、モミ他数種の育植を委託し、幼木を天狗杉北方尾根に植樹 |
| 2017 年度 2018 年度 | モニタリング調査区 4 ヶ所の設定、3 年間の新規事業開始、2018 年 9 月 4 日の台風 21 号による倒木の撤去と整理、東海自然歩道の復旧作業 |
| 2019 年度 | 春は 45 林班、夏は 44 林班を中心に活動、風倒木の処理、林床整備、ナラ枯れの防止のためのラップ撒きの回収作業、安全研修、見学者の受け入れ、自然歩道の水切り溝の保全作業、作業歩道の土留、モニタリング調査区の仕上げ |
| 2020 年度 | 夏は 44 林班、冬は 45 林班を基本に作業し、人工林「ろ」の森林保全活動、天然林の常緑広葉樹の除伐を実施、台風被害の倒木の整備、東海自然歩道の整備 |
| 2021 年度 | コロナ禍により、再三中止したため、作業の進捗が大幅に遅延。44 林班の第 1 水源と第 2 水源中心とした林道整備と台風被害の倒木の整理を実施 |



本山寺山の植物相・植生調査

本山寺山森林づくりの会の活動における基礎資料とするため、春・秋2回にわたって本山寺山一帯の植生、植物相、自然資源を把握した。以下にその結果の概要を示す。

調査年月日：平成25年5月13日（春季）表調査結果（確認科種数等）**60科110種**

平成25年11月22日（秋季）**61科103種**場所：44林班 い、ろ、は小班

調査者 中村 康則

植物相調査結果 調査地域のある本山寺山は、大阪府高槻市北部に位置する。調査地域である

本山寺山の森は、本山寺山の標高約300mから約640mの範囲に位置しており、低地帯から山地帯への移行帯にあたる。調査地域には主に、冷温帯に多く見られるモミ、ツガ、カシ類からなる天然林、スギ・ヒノキの植林、アカマツ林、竹林等が分布している。

現地調査の結果、春季110種、秋季103種、合計73科148種の植物種を確認した（その一覧を別表に示した）。確認種のほとんどは、大阪府の北摂地域に一般的な種であった。暖温帯の常緑広葉樹林に生育するヤブニッケイ、シロダモ、ヤブツバキ等の他、暖温帯上部から冷温帯にかけて多く見られるモミ、ツガ、クマシデ、イヌブナ、アカガシ等が確認された。



尾根筋や斜面上部等、比較的乾燥する立地には、アカマツ、マルバアオダモ、リョウブ、コウヤボウキ等のほか、アセビ、コバノミツバツツジ等のツツジ類が多く見られた。また、尾根沿い隣接している東海自然歩道沿いの明るい林床では、ササユリ、ミヤマウスラ等が確認された。斜面中部から下部にかけてはモミ、ツガ、アカガシ等の巨木群の下層に、クリ、コナラ、ケヤキ、ヤマザクラ、カエデ類等暖温帯の落葉広葉樹林の主構成種や、ヒサカキ、ヤブムラサキ等の低木類が多かった。浸み出し水がある谷沿いの岩場等では、ジュウモンジシダ、チャルメルソウ、ジンジソウ、ダイモンジソウ等が確認された。また、比較的水量の多い沢沿いや湿った林道沿いには、ネコノメソウ、ヤマネコノメソウ、ミズタビラコ等が確認された。急斜面地や露岩地では、オオキジノオ、アオホラゴケ、イワトラノオ、ヤブソテツ等のシダ植物が多く見られた。

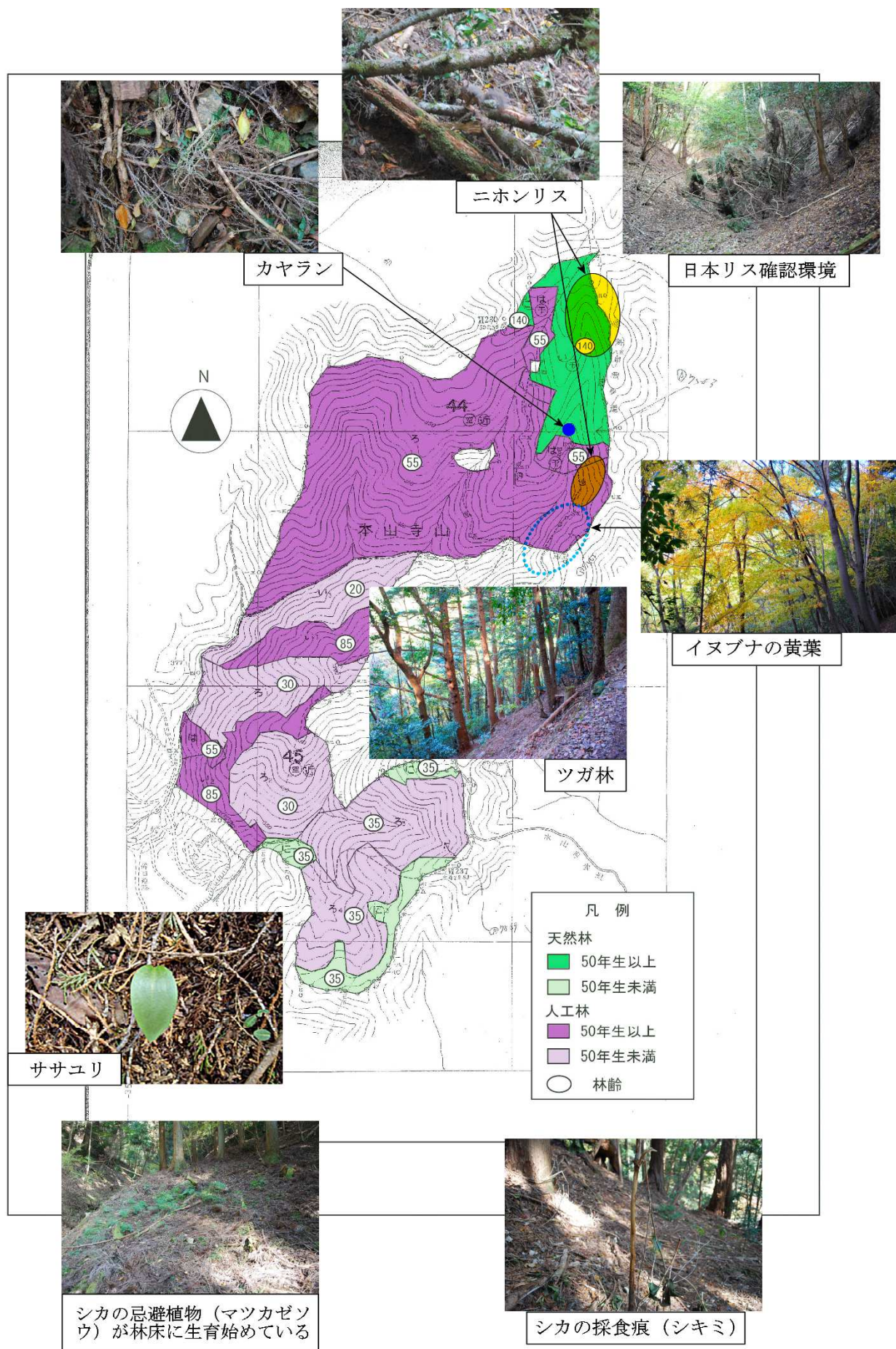
特徴的な種および景観 本山寺山の森林は戦後の一斉造林による伐採を免れた貴重な森林であり、大阪府に成立しているモミ・ツガ林として、大阪府のレッドデータブックにも指定されている。また、高槻市街地から近く、東海自然歩道として整備されていることもあり、身近なハイキングコースとして親しまれている。



このような地域利用の背景を踏まえて調査地域の植物の特徴を述べると、調査地域に特徴的な景観として、モミ・ツガの巨木群、カエデ類やイヌブナの紅葉（黄葉）があげられる。

また、周辺地域では生育が少なくなりつつあるササユリ、カヤラン等の生育が確認されており、市街地に近い森林としては珍しく、自然性の高さがうかがえる。

その他の生物種 秋季植物調査時に、ニホンリスを確認した。谷筋に溜まったモミの倒木やヒノキ林の斜面地等で活発に活動しており、越冬に向けての準備（貯食）を行っていると考えられる。



1. 「お寺」のこと

由緒や歴史は高槻市ホームページに詳しく記載されているので、切り口を代えて考察…

(7) **行者衣掛之松**：駐車場の少し先、自然歩道を左に分け入る旧道脇に傾いた小祠があり行者衣掛の松の故地と崇められている。「文武天皇元年(696 年)役行者葛城山に於いて北方に奇瑞を感じ当山に分け入られ松の木に衣を掛け休息されたと伝えられ、古くより南方葛城山方面を遥拝する場所とされている。

(4) **方位と北斗七星**：本山寺は山麓の神峯山寺を根本道場とし、南の安岡寺と併せて修験道起源の「北摂三山」と称される。その位置関係は古人の祈りの現われかも。

【柄杓を五倍すると北極星】



(ウェザーニュースより)

三山の位置は一直線、北に伸ばすと愛宕山。

方向は北から 7 度 45 分の傾き(右図)、距離的には神峯山寺～南山(安岡寺)と北山(本山寺)～愛宕山の距離は 1:5、これは見かけ上、北斗七星の柄杓の汲み口の距離と北極星迄の距離の比と同じ(左図)。(パナソニック松愛会高槻支部による)

なお、北斗の修法を記した「**北斗供**」は「先於浄室建壇備供具」で始まり、巻中には「夫い北斗七星トハ云々」の文字が見える。

【三山の先は愛宕山】



2. 山の「地質」のこと

大地はいろんな地層で形成されている。本山寺山一帯はボンボン山から伸びる丹波層だそうで、2 種の砂岩(黒灰色と暗緑灰色)と緑色岩が特徴的な**本山寺コンプレックス**と呼ばれている。素人には右写真のように泥と砂、そして岩が不整の層を成す崩れ易い地盤で、滑り易さにはいつも悩まされる。もう一つの特徴は左写真の**緑色枕状溶岩**。丹波層の形成は 2～3 億年前と言われている、本山寺山は地球の記憶の詰まった山なのだ。

【枕状溶岩の露頭】



←露頭の岩石は、横断面の外形が、枕やシュークリームのような団塊を幾つも積み重ねたような形態で、枕状溶岩と呼ばれている。(楠利夫「露頭紹介」による)

『(本山寺の) 駐車場から登り始めると、左に緑色と小豆色が混ざったような崖が始まる。これが緑色の枕状溶岩の露頭』

【層序の例】



(付) お山の祭祀：本山寺は天台宗、本尊は毘沙門天。開祖役行者の修験道寺院でもあり、山では
いろいろな祈りに触れることができる。

【初寅会の大護摩供】



【北山本山寺霊雲院 境内】



編集後記

本山寺山森林づくりの会は、結成以来本山寺山の森の森林保全の為に活動を展開し、コロナ禍で中断することがありましたが、多くの会員の方のご支援を得て会を続けることができました。おかげをもちまして、10年の節目の年に記念誌を無事発刊できました。掲載したいことが多くありましたが、編集委員会の論議を重ね、活動がわかりやすい内容にしようと努めました。本山寺山で生物多様性の森林保全活動は、貴重な体験でしたが、振り返れば本当に楽しい10年間だったと思います。この活動当初からご尽力されていた元副会長の秦康夫さんは、本山寺山森林づくりの会設立に奔走し、当初から、運営にかかわってこられましたが、残念ながら2017年7月にご逝去されました。ここに追悼します。当時の秦さんの思いを知るために、2014年に機関紙「あかがし」に掲載された感想文を紹介します。

森づくりの楽しさ 秦 康夫

2010年10月、京都大阪森林管理事務所の担当官に本山寺山国有林の現作業地を案内してもらい、作業を開始してから、2012年6月には「本山寺山森林づくりの会」が正式に発足しました。毎月の作業参加者も当初は4〜5名程度だったのが、現在では毎回10名内外の参加を得られるようになりました。チェーンソーは使用せず、手ノコによる手作業なので、間伐作業もなかなか予定通りには捗りませんが、それでも東海自然歩道周辺の森は大分明るくなりました。

徐々にでも間伐が進んだお陰で、密生したヒノキの植林で閉ざされていた空間も開けて陽光も射すようになり、光を求めていた広葉樹の生育も数年先には期待できます。森づくり作業の楽しさは、なんと言っても、汗水たらして苦労した成果が、目に見える形として現れてくることです。薄暗くてうっとうしかった植林帯が、少しずつではありますが明るい森に変身して行く姿をみるのは楽しいものです・・・中略・・・

せっかくの楽しい森づくりなのにケガをしてはなんにもなりません。安全第一をモットーに、作業前の装備・服装の点検、上下作業、接近作業の禁止等基本ルールの徹底を怠らず、スローペースではあるけれど「安全で楽しい森づくり」を進めてまいりたい。



本山寺山森林づくりの会 10周年記念誌

2012.6.17~2022.6.16

発行者：本山寺山森林づくりの会
発行所：〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22
梅田ビル3階304号室
公益社団法人 日本山岳会関西支部内
発行日：2022(令和4)年8月1日